

## 旧東郷家住宅離れ

この小さな建物は、かつて東郷平八郎（1848～1934）の居館として使われていた。この建物は「離れ」と呼ばれ、平八郎が呉海軍所の参謀長を務めた 1890 年 5 月から 1891 年 12 月までの間、客人をもてなすための場として利用されていた。

平八郎は薩摩藩（現鹿児島県）の武家に生まれた。幼くして帝国海軍に入隊し、7 年間イギリスに留学して海軍学を学んだ。帰国後も出世を続け、帝国海軍連合艦隊司令長官に任命された。対馬海戦（1905 年）では、平八郎の指揮下で、当時世界第 3 位の強国と言われたロシア海軍のバルチック艦隊を小艦隊がほぼ壊滅させてしまった。この予想外の結果は、日露戦争(1904-1905)で日本海軍を勝利に導き、東アジアにおけるロシアの海軍支配に終止符を打つことになった。この功績が認められ、平八郎は海軍元帥に昇進した。

この別室は、元々は宮原の平八郎の母屋の庭にあったもので、呉海軍基地を見下ろす場所にあった。この屋敷から海軍基地へと続く坂道は、現在でも「東郷坂」と呼ばれている。1980 年に現在の場所に移築され、現在は地域住民の憩いの場や博物館として利用されている。1997 年には国の登録有形文化財に登録された。